

# 五省会ニュース

特定医療法人五省会西能病院  
〒930 富山市五福1130  
TEL (0764) 41-2481(代)  
発行人 西能 正一郎

**五省**  
一 至誠に悔るなりしか  
一 言行に恥るなりしか  
一 氣力に盡るなりしか  
一 努力に憾みなりしか  
一 不精に怠るなりしか

## 不安や疑問が解消された 分かりやすく、適切に

### 入院患者さんに薬剤管理指導

西能病院の薬剤部(薬剤師三人、事務員一人)は、今年一月から入院患者さん八十二人(四月末現在の薬剤管理指導を行っている。これは同指導料を請求できる施設基準規程に必要な体制ができたので県保険課に届けて認可されたもの)。

指導内容は、医薬品情報管理室(薬相談室)の業務、薬歴管理(重複投薬や相互作用などのチェック)及び服薬指導、個人毎に注射液を供給するなど。

入院患者さんと一番密着しているのが服薬指導。担当医師の指示または同意を得て、週に一回以上の指導を実施している。

その主なものは、薬品名、薬効、服用方法、副作用の説明、他の薬との相互作用、食物との相互作用、飲み忘れ時の対応、保管方法、処方変更など。

専門用語はできるだけ避け、分かりやすく説明し、有効かつ安全な薬物療法を遂行できるように、適切な指導と助言を心掛けています。



患者さんに服薬指導の山田薬剤師

患者さんたちは「薬の説明してもらって薬効がよくわかった」「薬に対して不安や疑問があったのが解消された」と語っている。

### ケアの充実を

上田薬剤部主任の話  
平成三年五月一日から実施の院外処方箋発行に伴い、薬剤師業務を外来から病棟へとシフトする事が可能となり、入院患者さんのケアの充実が図れるようになった。また、薬剤師が病棟活動を行う事は、看護婦の病棟での薬剤に関わる業務が軽減され、看護業務の充実の一助にもなり、患者さんサービスの向上更に薬剤師の職能の向上にもつながる。



親しみの地域医療を

西能病院は、四月から整形外科に橋英明医師を迎え、診療体制を強化しました。次は橋医師の抱負です。

今まで勤めていた東海大学病院では、その性格上なかなか地域医療を重視することはできませんでした。

昭和63年9月 東海大医学部卒業、平成2年6月 同大病院研修医、同4年 同大病院整形外科、同5年 寒川病院整形外科、同6年4月 同大病院整形外科。朝日町出身。

### 薬剤管理

薬剤管理指導料には、薬剤管理指導料には、管理及び医師に対しての情報提供(4)入院患者の薬剤管理指導記録を作成、適切な指導を週一回以上行う(5)投薬管理は、原則として注射薬についても、その都度処方箋により行う。

## 何か狂ってきた

### 西能 竝

一九九五年は、暗くて不安なニュースが次々と起っている。阪神大震災、地下鉄サリン事件、警察庁長官狙撃事件、オウム真理教の大捜査、信用金庫乱脈融資、政党政治の崩壊、と関心を集めた。元来、宗教団体として発足しさらに、空前の円高と長引く不況など数多い。

## 原点に戻って、見直す時期が...

戦後五十年、先輩達が着々と復興を行い、安全で経済大国と言われてきた日本であるが、ここに来て、大きく、Uターンをはじめたようである。

天災と申せば致しかたないが、あの二十秒余りの激震で五千人以上の死者を記録した、阪神大震災は、防災対策や、初動態勢においての反省点が浮きぼりとなり、緊急時の医療体制の弱点も今後の大きな課題として残った。に未成熟な若者が、安易に入信し、洗脳され、

オウム騒ぎのなかで、今年のゴールデンウィークも終わった。県内の殆どどの公立病院では、土曜日を含まず、長期の休診による医療のトラブルはなかつただろうか、医療の責任は果たされているのか心配である。当院は、数年前からの休日診療で、ゴールデンウィーク中も毎日診療を行い、多くの患者さんの御利用を頂いた。職員一同、大変ではあったが、いい汗をかけた、満足感のある連休明けである。

## あすなろ

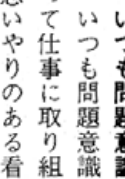
「スウェーデンでは二階以上の建物にはエレベーターをつけることが義務づけられていて、しかも前後に入口があるの車いすでも向きを変えても出入りができるのです」先日ある会合で、厚生省の委託事業でスウェーデンの保健活動を視察してきた看護婦の西村和美さんが報告した。車いすは、高齢者だけのものではない。ケガや病気で一時的にせよ車いすに頼る人は多い。その人達と一緒に、車いすに乗って初めて、いかに世の中が健常者にあわせてあるかを感じ知らされたという。おしやれな石畳の舗道はデコボコして車いすの体に響くこと。排水を考えた緩やかな舗道の傾斜は、車いすが傾いて倒れそうで恐ろしいこと。ほんのわずかな段差が行く手を阻むこと。教えあげればきりがなし。昨年、だれもが利用する民間の建築物を対象に、高齢者や障害者が利用しやすい施設整備を促すハートビル法が制定された。設計段階から、障害者や高齢者の意向を聞いて建築した大型スーパー店も全国に次々と生まれてきた。だれしもが加齢を逃れることはできない。高齢になればつまずいたり転んだりのちよつとしたことが骨折などの大ケガに結びつく。未曾有の高齢社会を迎える日本では、高齢者や障害者の声にもっと耳を傾けなければいけない。そうした視点でつくられた町は、だれにも優しく住みよいのだから。

## 新人の抱負

新入職員九人の研修会を四月三日から七日まで開き医療や病院のマナーを学びました。つぎは、その力強い抱負です。



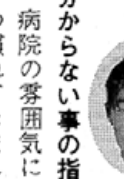
いつも問題意識をいつも問題意識をもつて仕事に取り組み、思いやりのある看護を心がけたいです。(看護部 谷本依美子)



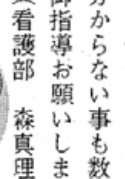
分らない事の指導を病棟の雰囲気にならずに慣れてきましたが、分らない事も数多く御指導お願いします。(看護部 森真理子)



笑顔の似合う...笑顔の似合う、患者さんに頼られる看護婦に一日も早くなれるように、がんばります。(看護部 中村みどり)



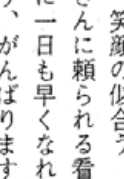
初心を忘れずに社会人として働く様になり、二カ月近くになりました。初心を忘れずに頑張ります。(看護部 清水律子)



しっかりと勉強して整形外科は初めてなので、しっかりと勉強してエキスパートになりたいと思います。(看護部 中村公春)



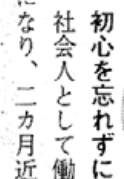
少しづつ覚えて慣れない仕事を少しずつ覚えていき、失敗をしないようにがんばりたいと思います。(看護部 北村優子)



仕事、問題をしっかりと自分に与えられた仕事、問題が中途半ばにならないよう、学んでいきたいと思ひます。(看護部 山田真希)



心にゆとりをもってどんな時でも心にゆとりをもって患者さんに接する様に努力していきます。(リハビリテーション 専任 裕子)



確実に責任をもって一つでも多くの仕事を確実に、そして責任を持ってこなしていきたいです。(健康事業部 内山里美)

戦後五十年  
原爆雑感  
黒川幸男

在ザム第二〇〇空軍司令部作戦命令書一三〇号 一九四五年八月二日  
攻撃目標 広島市中  
心部と工業地域



広島市上空をおおった爆発直後の不気味な雲

予備第二目標 小倉  
造兵廠並びに同市中心部  
予備第三目標 長崎  
市中心部  
特別指令 目視投下に限る  
投下高度 二万八千フット(二万七フット)  
飛行速度 時速二〇〇

前記以外の友軍は一機たりとも攻撃前四時間攻撃後六時は攻撃目標より五〇マイル以内に入るべからず  
これが原爆を積んだ

この時の飛行機について戦後の資料によりますと、広島に原爆が投下されたのは、八月十六日朝から夕方にかけて、上空に雲が注ぎ、視界が悪化し、機体は揺られていたとされています。

西能正一郎が戦時中、福岡の呉羽紡績の工場に女子挺身隊として寮生活を送っていたが、八月十六日朝から夕方にかけて、上空に雲が注ぎ、視界が悪化し、機体は揺られていたとされています。

西能正一郎が戦時中、福岡の呉羽紡績の工場に女子挺身隊として寮生活を送っていたが、八月十六日朝から夕方にかけて、上空に雲が注ぎ、視界が悪化し、機体は揺られていたとされています。

西能正一郎が戦時中、福岡の呉羽紡績の工場に女子挺身隊として寮生活を送っていたが、八月十六日朝から夕方にかけて、上空に雲が注ぎ、視界が悪化し、機体は揺られていたとされています。

消火、通報、避難を  
夜間を想定して自衛消防訓練



自衛消防訓練をおえて、講評を受ける参加者

「午前一時ごろ、三階西アールーム喫煙所より出火、火災が発生した」と想定した初期消火、通報、避難などの訓練を職員四十八人が参加して実施した。

非常ベルが鳴動、保安当直室から「ただ今の非常ベルは三階警戒区域10である」と院内放送、三階の当直看護婦三人が「喫煙所が火事だ」と大声で呼び、屋内消火栓で初期消火が指揮にあつた。

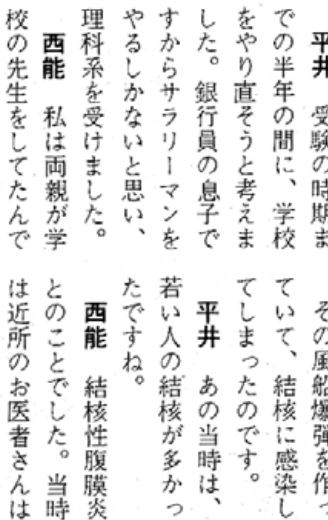
「地域の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

患者さんの安全を第一に  
不安を除き、落ちついて行動



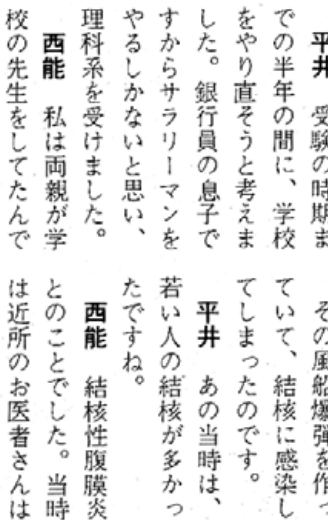
救急用エアマットの操作訓練＝三階ナースセンター前で

看護部の職員九十六人(看護学生を含む)が「災害時 そのとき私は」をテーマに、五月号で「勤務時の場合」の行動、備えなどをまとめた。いずれも、看護婦としての責任感があふれている。なお、事務部では、各部署からの意見をまとめて防災対策マニュアルの作成を進めている。

「患者さんの安全を第一に、不安を除き、落ちついて行動」

「患者さんの安全を第一に、不安を除き、落ちついて行動」

手づくりの手話テキストを  
看護部の刑部さん、矢後さんが協力



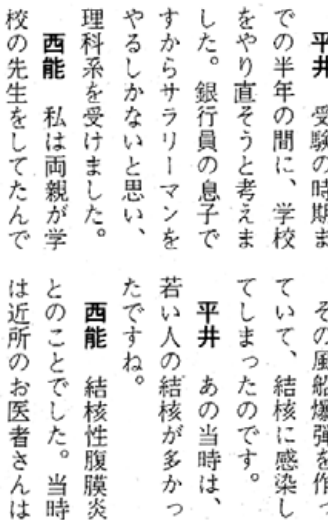
手づくりの手話テキストをみる矢後さん(左)と刑部さん

「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を

「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を

「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を「手話テキスト」を

いまを生きる  
西能正一郎対談シリーズ



「サラリーマンになるしかなかった」  
と笑い、不得意だったけれど理系にすすみました」と西能氏

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

病院に駆けつける  
地域の救護活動も

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

「家族の安全を確認したうえで、病院に駆けつける」「交通事情などで病院に行けないときは、地域の救護活動のお手伝いをしてほしい」

災害時 そのとき私は  
看護部職員96人がレポートを提出

「患者さんの安全を第一に、不安を除き、落ちついて行動」

「患者さんの安全を第一に、不安を除き、落ちついて行動」

「患者さんの安全を第一に、不安を除き、落ちついて行動」

「患者さんの安全を第一に、不安を除き、落ちついて行動」

いまを生きる  
西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

「いまを生きる」西能正一郎対談シリーズ

# より活性化を

## 第五回院内研究発表会から

「喜ばれる患者給食を目指して」栄養部  
十四人、発表者、新庄則子



選択献立の打合せをする  
栄養部員、まん中が新庄栄養士

昨年十月より、患者さんから六百円負担していた給食も、きめ細かに病院給食も、きめ細かに

いサービスが要求され、病院選択基準の一つに。当院でも、今まで以上に選択献立の回数を増やし、画一的な献立から個人の嗜好を重視した食事を提供し、給食サービスの向上に努めている。今回、患者さんの評価と残菜量について報告する。調査期間は平成六年

十月から十一月までの二カ月間。対象は、選択できる入院患者さん百六十人。

### 好きなものが選べてよい69%

### 喜ばれる選択献立

### 給食に対する欲求不満の解消にも

△選択することについて、どのように思うか  
①好きなものが選べてよい69%  
②もっと変化がほしい16%  
③選択するの面倒6%  
④無回答9%

△一カ月の選択献立の回数についてどう思うか  
①八回25%  
②十一回55%  
③十二回3%  
④無回答17%

△選択献立(十回分の残菜率は十回平均の選択献立の残菜率は8.7%。一方単一献立の残菜率は10.3%で、わずかながら選択献立の残菜率が少ない。  
× ×  
選択献立の長所を挙げてみる。  
一、食事に対する関心が高まる。  
二、自分で選ぶ事により喫食率が高まる。  
三、給食に対する欲求不満の解消になる。  
四、患者さんとの間に、コミュニケーションができ、栄養指導に結びつく。  
入院患者さんにとつて、唯一の楽しみである食事をただ一方的に与えられるのではなく、少しでも自分で選んで食べるといことは、かなり精神的に潤いを得られるのではないだろうか。  
今後ともスタッフが一丸となり、より一層、献立内容の充実を図り、患者さんに喜ばれる食事を提供していきたいと思っている。

## 六年度の一日平均は百五十五人

## 休日診療

### ゴールデンウィークに千三百九十四人

西能病院が年中無休の「休日診療」(内科、整形外科、リハビリ)をはじめたのは昭和六十三年三月。この七年間の休日診療に来院した患者さんは延べ六万九千五百人になった。平成六年度は一万二百三人(六十六日)で、一日平均は百五十五人である。



四月二十九日の待合室風景

八回目を迎えたゴールデンウィーク(四月二十九日～五月五日)の七日間(うち休日は

初日の二十九日の受付状況をみると、午前七時すぎに男性が来院、午前八時半の診察開始までに二十人が受付用紙に記入した。なかには、自宅後頭部に打撲挫創の主婦(三五)富山市五福末広町が、ハイヤーでかけつけ、応急手当をしてもらった。「本当にホッとしました。近くに休日診療の病院があったので助かりました。有難いことです」と感謝していました。

この期間中は、診察有無の問い合わせ電話がよくかかり、職員は丁寧に「休日診療」を伝えていた。

## 六、七月の入校日

## 糖尿病スクールの

糖尿病スクールの受講者を募集している。期間は一週(日曜日、土曜日)。血糖、眼底検査、栄養、服薬、日常生活などを指導する。受講料は一万五千元。

## 病院だより

### 四月

三日五階ホールで新入職員の入職式。七日五階ホールで新入職員の歓迎会。八日五階ホールで入院患者さん七十一人が県議選の不在者投票。

### 五月

十一日坂倉看護部長が五階ホールで「看護の日(五月十二日)にちなんで」と題して講演。二十九日五階ホールで健康教室。八島医師が「年齢と膝関節について」講演。

心が高まる。  
二、自分で選ぶ事により喫食率が高まる。  
三、給食に対する欲求不満の解消になる。  
四、患者さんとの間に、コミュニケーションができ、栄養指導に結びつく。  
入院患者さんにとつて、唯一の楽しみである食事をただ一方的に与えられるのではなく、少しでも自分で選んで食べるといことは、かなり精神的に潤いを得られるのではないだろうか。  
今後ともスタッフが一丸となり、より一層、献立内容の充実を図り、患者さんに喜ばれる食事を提供していきたいと思っている。



いただいた。(写真は護国神社で)

十九日入院患者さん七十人が、各階(二～四階)で地方統一選の不在者投票。  
十九日～二十八日熊谷組富山支店の職員三十九人が六回にわけて集団検診を受けた。  
梨雲苑入苑者が骨量を測定  
二十五日、二十六日、二十八日梨雲苑入苑者二十五人が骨密度測定室で骨粗しょう症の検査を。(写真左)

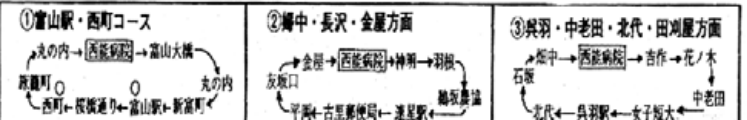


検査を。(写真左)

# 診療体制のご案内

### 通院バスのご案内

月曜～土曜 午前運行  
(日曜、祝日は休み)  
○印は臨時停留所、その他、臨時停車します。



休日診療 (日曜日・祝日)	
整形外科	午前8時30分～午後5時
内科	
リハビリテーション科	

平日診療 (月曜日～土曜日)	
整形外科	午前8:30～12:00 午後4:00～7:00
内科	午前8:30～12:00 午後3:00～5:00 (火・金曜日は7:00)
リハビリテーション科	午前8:30～12:00 午後1:30～7:00

スポーツ整形外科	
水・土曜日	午後4:00～7:00
糖尿病外来	
火・金曜日	午前9:00～12:00
循環器外来	
月曜日	午後1:30～3:00

人間ドック	
日帰りコース	1泊2日コース 2泊3日コース 3泊4日コース (申込先) 健康事業部 8:30～17:30
泌尿器科外来	
月曜日	午後1:30～5:00
神経内科外来	
土曜日	午前9:00～12:00

体力測定室	
月～金曜日	午前10:00～12:00 午後2:00～5:00 (申込先) 健康事業部
在宅看護・診療	
木・金曜日	午後1:30～4:00
栄養指導	
月曜日～土曜日	午前10:00～11:00